

## 2 環境配慮の計画と実績の要約

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成19年度年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成19年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
1. 環境の保全に関する教育研究活動を推進する。		
<p><b>環境教育活動</b></p> <p>① あらゆる専門分野から環境問題への教育研究を進め、環境配慮に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>教育内容の学際化、高度化及び国際化を推進し、また、安全、環境及び倫理等の内容を含む多様な授業科目を充実させる。</p>	<p>全学教育において「防災科学」「環境と文化」等の環境に関する科目を実施した。</p> <p>教育学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学部3年次生(学校教育教員養成課程は選択科目、情報文化教育課程は必修科目)を対象とした「環境教育」の授業、学部2年次生(必修科目「総合演習」の中の1テーマ)を対象とした「環境教育演習」の授業を実施した。</li> </ul> <p>環境科学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本来的な業務として、環境教育を継続的に実施中である。</li> <li>環境科学部の講義「環境マネジメント論」受講者を中心に、学部および地域の環境活動を積極的に行っている。</li> </ul> <p>熱帯医学研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界保健ニーズに応える医薬品研究開発ディプロマコース(Diploma Course on Research &amp; Development of Products to Meet Public Health Needs)の開催</li> <li>熱帯医学研修課程の実施</li> <li>熱帯医学修士課程の実施</li> </ul> <p>附属学校園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>附属中学校では、公民、地理、英語、保健体育の科目で、環境問題を扱った。また、「学問探究」という教育活動の中でも、環境問題を扱った。</li> </ul> <p>共同研究交流センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学から排出される実験廃液の管理状況の理解を促すため、工学部応用化学科の学生を対象に実験廃液処理施設の見学会を実施した。</li> <li>共同研究交流センターの機器利用者を対象に、環境配慮に係わる諸注意を含む機器利用者講習会を開催した。</li> <li>「環境と安全に関する手引き」を改訂した。</li> </ul>
<p><b>環境研究活動</b></p> <p>② 多様な専門分野が連携した環境研究を遂行する。</p>	<p>新たな学術協定締結大学(校)を中核とし、日本-台湾-韓国-中国を結ぶ環境学研究教育の交流ネットワーク形成を推進する。</p> <p>環東シナ海海洋環境資源研究センターを国内外の海洋・水産研究機関との共同研究推進基地として活用する。</p> <p>実践的環境教育研究の実施拠点施設として雲仙Eキャンレジ(ECOLOGY CAMPUS VILLAGE)の整備に着手する。</p>	<p>環境学研究の交流ネットワーク形成のため、淡江大学(台湾)、江原大学校(韓国)に続き、本年度は吉林大学(中国)との学術交流協定締結を行った。</p> <p>上海水産大学(平成20年5月上海海洋大学に改称)と新たに学術交流協定を締結し、平成20年度に同大学に長崎大学の交流推進室を設置することとした。また、東シナ海の水産・海洋科学に関する国際ワークショップを行い、国内外の関係研究機関との連携を強化した。</p> <p>環境科学部と長崎県環境部及び雲仙市の連携・協力に関する協定書を締結、併せて、雲仙Eキャンレッジ推進協議会を設置し、雲仙市に教育研究施設を確保した。</p> <p>「長崎大学エネルギー環境教育研究会」の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部、環境科学部、工学部と外部の関連機関が連携して長崎大学エネルギー環境教育研究会を設立し、学校を中心とした教育研究活動が開始された。</li> </ul>

は、平成19事業年度に係る実務の実績に関する報告書に記載された事項

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成19年度年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成19年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
<p><b>国際連携活動</b></p> <p>3 国際的環境研究・教育への協力、環境問題の相互理解と情報の共有を推進する。</p> <p><b>産学官連携活動</b></p> <p>4 産学官連携による環境研究を推進し、その研究成果の社会への還元を努める。</p> <p><b>地域連携活動</b></p> <p>5 環境保全等に関する知識・技術を発信し、地域との連携・コミュニケーションを推進する。</p>	<p>長崎大学に設置した長崎大学 済州大学校交流推進室を活用し、済州大学校との研究交流を推進する。</p> <p>水産学部と環東シナ海海洋環境資源研究センターでは、連携融合事業の第2の拠点として上海水産大学(中国)に交流推進室を設置する。</p> <p>環境教育研究における地域連携のコーディネートセクションとして、環境教育・研究マネジメントセンターを開設する。</p>	<p>個別研究事例 (工学部) ・工学部情報システム工学科において、環境に関する委託研究を行った。 (環境科学部) ・韓国の全南大学との学术交流および共同研究 (水産学部/環東シナ海海洋環境資源研究センター) ・連携融合事業を通して、西海区水産研究所、長崎県、韓国海洋研究院などと海洋環境の保全に関する研究を推進した。</p> <p>済州大学校と赤潮・環境ホルモンなどの研究の交流を長崎大学 済州大学校交流推進室(済州大学校内)を活用して推進した。</p> <p>上海水産大学(平成20年5月に上海海洋大学に改称)との間に学术交流協定を締結し、学生交流の覚書の締結に向け準備を進め、更に、共同研究を開始し、平成20年度に同大学に長崎大学の交流推進室を設置することとした。</p> <p>「ガラパゴス諸島植物生態画像データベース」の構築と公開 大洋州諸国の予防接種事業における廃棄物処理に関する活動</p> <p>「TDK 寄付講座エネルギーエレクトロニクス学講座」の設置決定 「グリストラップ浄化用システム及び資材の開発」 長崎出島サイエンスカフェ - 長崎市中央公民館との共催 -</p> <p>環境科学部に環境教育研究マネジメントセンター(ER-MAC)を設置し、雲仙Eキャンレッジプログラムを具体化した。</p> <p>環境科学部10周年記念事業の実施 ・環境科学会2007年会開催 ・市民公開講演会の開催 ・記念講演会の開催 ・環境科学部創立10周年記念式典・祝賀会の開催 九州地区国立大学連携事業 防災・環境ネットワークシンポジウム2007・イン・ナガサキを開催 第3回長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター市民講演会“危機遺産ガラパゴスの昔と今”を開催 長崎大学エネルギー環境教育研究会の地域連携活動 サイエンスワールド in 佐世保 出前講義</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成19年度年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成19年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
		<p>共同研究集会の開催 「リモートセンシングおよびGISを用いた社会環境要因に帰する感染症対策への適用研究」 熱帯医学研究所では、全国共同利用研究所として、所外の教員及び研究者と本研究所の教員による研究討論集会を行っており、専門分野の研究者のみならず、一般市民にも最先端の研究内容を分かりやすく情報発信している。その一例として、「リモートセンシングおよびGISを用いた社会環境要因に帰する感染症対策への適用研究」というテーマで開催した共同研究集会を紹介する。 電力の有効利用 年末年始のイルミネーション点灯</p>
2. 学内におけるすべての活動に伴う環境への負荷を低減する。		
① エネルギー使用量の抑制、廃棄物の削減、資源のリサイクル等を積極的に推進する。	<p>情報のデータベース化と既存書類の電子化に関する行動計画に基づき、情報のデータベース化と既存書類の電子化を含むペーパーレス化を更に推進する。 業務の見直し及び効率化に関する行動計画に基づき、光熱水料等管理費の更なる低減を進める。 エネルギー使用量の公開やポスター等により省エネルギーを推進し、温室効果ガスの削減への意識啓発を引き続き図る。</p>	<p>会計実務研修等の研修資料についてデータベース化し、学内向けホームページから閲覧・印刷可能とした。また調達業務における業者への入札説明書の交付を紙媒体から電子媒体へ移行し、約15,000枚のペーパーレス化を推進した。 新聞等の定期刊行物の精選及び数量の見直しを行い、約520千円の経費を削減するとともに、支払回数の見直しなど事務手続きの効率化及び経費の節減を図った。 学内ホームページや環境報告書で過去3年間のエネルギー使用量を公開した。 本学における全部局等が構成員となるエネルギー管理体制を定め、一層の省エネルギーを推進することとした。更に、省エネポスター等の掲示を行うなど引き続き温室効果ガスの削減への意識啓発を図った。</p> <p>冷暖房中の室温調整 クールビズ、ウォームビズの推進 省エネ機器の導入 センサー付照明器具の導入 節電・節水 屋上緑化の推進 コピー用紙の削減 リサイクルトナーカートリッジの促進 グリーン購入法適合商品の購入</p>
② 環境関連法規、規制と学内規定等を順守する。	核燃料物質、RI、毒劇物及び病原体等の使用状況等の検証及び「PRTR法」への対応を継続する。	<p>医学部・歯学部附属病院のRI施設については、登録検査機関による法令に基づく施設定期検査を受検し、施設の健全性の確認を受けた。 核燃料物質及びRIについて、受払簿等により管理するとともに定期的検証を行い、全学の放射性同位元素等安全管理委員会において報告した。 「PRTR法」については、共同研究交流センター環境安全マネジメント部門が対応し、調査結果はホームページ及び「環境報告書」に公表した。</p>
③ 環境汚染を予防し、キャンパス内の環境の保全・改善を図る。	<p>平成18年度に決定した文教キャンパス全面禁煙の徹底を通じて環境配慮を進める。 「キャンパス美化週間」を設定して、学生と教職員が一体となった取組を行うことにより環境の改善と美化意識の醸成を図る。</p>	<p>全てのキャンパスにおいて全面禁煙とし、教職員及び学生に対して所定の場所以外での禁煙啓発活動を実施した。  学生・職員が参加する学内美化期間を設定して、環境の改善と美化意識の醸成に務めた。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成19年度年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成19年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
	<p>経済学部土地の一部譲渡に伴う都市計画道路工事後の片淵キャンパスの緑化保全等を担保し、良好なキャンパス環境の確保を図る。</p>	<p>長崎市の道路工事進捗状況に合わせて片淵キャンパスの環境整備等を進めた。</p>
<p>3. 大学運営システムの一部としての環境マネジメントシステムを構築し、定期的に見直すことによって、継続的改善を図る。</p>	<p>全学委員会である環境委員会を中心に、環境マネジメントシステムを運用することによって、環境配慮の方針に基づいた取組を推進するとともに「環境報告書2006」を公表する。なお、システムの運用にあたっては、共同研究交流センター環境安全管理部門及び環境科学部が支援を行う。</p>	<p>全部局の委員から構成される環境委員会を中心に、共同研究交流センター環境安全管理部門及び環境科学部の支援の下、環境配慮の方針の実現に向けた取組を推進した。特に、省エネルギー、温室効果ガスの削減は、最も重要な取組と位置づけ、エネルギーの使用の合理化に関する規程を制定する等、エネルギーの使用の節減及びエネルギーの有効な利用を組織的に進めた。</p> <p>また、平成18年度の環境に配慮した取組については「環境報告書2006」にまとめ、本学ホームページおよび冊子により情報を発信した。</p>
<p>4. 環境配慮の方針及び環境配慮等の状況を、本学ホームページ上に公表することによって、本学構成員に周知し環境配慮の意識向上を促すとともに、社会への説明責任を徹底する。</p>		